

# 獣医学共用試験調査委員会（第1回） 議事録（案）

1 日時 平成21年12月4日（金） 13:00～16:30

2 場所 東京大学農学部3号館105B

3 出席者

酪農学園大学：山下和人教授

岐阜大学：北川均教授、

北里大学：高井伸二教授

岐阜大学：杉山誠教授

日本獣医生命科学大学：新井敏郎教授

麻布大学：浅井史敏教授

日本大学：鎌田寛教授

東京大学：大野耕一准教授

東京大学：尾崎 博教授

北海道大学：伊藤茂男教授

東京大学：吉川 泰弘教授

4 議題

(1) 委員会の位置づけと目的について（尾崎先生）

委員会開催に先立って、吉川先生、伊藤先生からご挨拶と本委員会の使命についてご説明を頂いた。来年3月末の全国獣医学関係代表者協議会に答申（報告書）が出ることを期待。

尾崎先生から獣医学共用試験調査委員会を設けた経緯について当日配布資料を用いてご説明頂いた。

(2) 獣医学における共用試験に関する意見交換

1) 獣医学教育における共用試験の目的・意義・期待される効果などについて、試験の賛否を含めて、意見交換を行った。

2) 現行の不十分な臨床教育体制に、さらに CBT 試験、OSCE 試験を行って何を求めるのか？（受け皿の環境が整っていない）

3) 共用試験はコアカリキュラムと表裏一体との認識を持っている。

4) 見学型から参加型実習への法的・社会的責任の裏付けとしての必然性。

5) 各大学の臨床実習教育事情（カリキュラムとスタッフ等）で捉え方も異なるし、また、臨床と非臨床系でも意見が異なるであろう（？）

6) CBT/OSCE 試験を進める上での最終目標となる戦略はあるのか？

7) CBT/OSCE を実施する負担以上に得るもの（中間試験、大手を振って臨床実習ができること、長期戦略（人員配置増）等）を明確に示す必要があ

る。

8) 対象を、アドバンスか、全員か？の議論もあった。

9) CBT/OSCE の取り扱いについて、進級要件とするか？、仮免という認識でよい、大学での裁量でよいとか。

10) 実習の範囲については、臨床実習のみで、応用系（公衆衛生・家畜衛生）までは、現時点では必要ない（フォーカスを絞ると言う意味で）。

(3) 医学部と薬学部における CBT 試験の概要の確認

尾崎先生から予め頂いた、幾つかの質問事項に答える形で、事前配布した資料を確認しつつ、医学部・歯学部と薬学部における共用試験の概要を学習し、共通認識を持つことが出来た。しかし、試験実施までに至る問題点を直接当事者からお聞きする機会の必要性を感じ、医学、歯学、薬学における共用試験に携わって来られた先生をお招きしての勉強会を次回に開催することとした。

(3) 各委員への宿題

総論賛成、各論反対等が予想されるので、共用試験の目的と意義に関する理論武装が不可欠であろう。各大学の事情や背景も異なるので、幅広い意見に対応できる目的・意義と更には共用試験による期待される効果・将来展望について取り纏め、各委員は必要があれば学内でのご相談等を踏まえて年末（12月28日）までにメールで送付をお願いした。

(4) 次回の予定

今後の予定について検討し、次回を平成22年1月5、6日の日程調整を行うこととした。

医学部共用試験の概要紹介と質疑応答

講師依頼者：？（尾崎先生：ご所属とお名前をお教え下さい）

薬学部共用試験の概要紹介と質疑応答

講師依頼：伊藤智夫先生（北里大学薬学部・学部長）

CBT 問題委員会・委員

歯学部共用試験の概要紹介と質疑応答

講師依頼者：？（鎌田先生：ご所属とお名前をお教え下さい）

以上（文責：高井）